

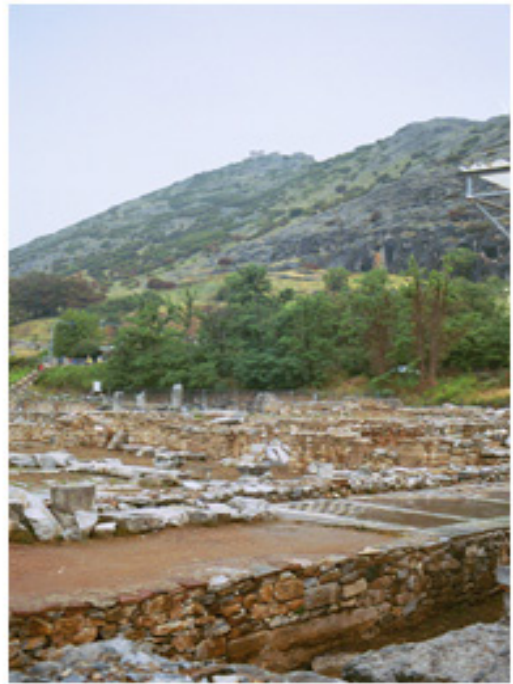


ピリピ人への手紙 を読む



EGNATIA OΔΟΣ
VIA EGNATIA

「ですから、成人である者はみな、
このような考え方をしましょう。」



A Come before Winter インターナショナルディベロップメントセミナー
2016年10月 日本 東京

ピリピ人への手紙

目次

連絡先及び著作権に関して.....	4
セミナースケジュール	5

養成

聖書釈義とは何か?.....	7
ステップ1. み声を聞く準備	8
ステップ2. 文脈を見出す.....	14
ステップ3. 書かれていることを吟味する	22
ステップ4. 主たるポイントを探る.....	30
ステップ5. そのメッセージを自分の人生に当てはめる.....	34
分かち合いの準備	36
礼拝プランに関する神学.....	28

自分と向き合う課題: 静まり、一人で、祈る

私は確信しています—神がなさるであろう.....	12-13
苦難に遭うのは当然です—神がなされた.....	20-21
交わりの中で堅く立ちなさい—キリストが一つにする.....	26-27
主にあって一致してください—調和が重要.....	32-33

付録

テーマに関する注釈: ともに堅く立っている.....	37
書簡の性質を理解する	38
書簡を分析するための適切な質問	39
歴史的事柄の見解	40-41
文脈によるピリピ書	42-46

ワークシート予備	50-53
----------------	-------

著者:

カレン・アレクサンダー

Come before Winter, Inc.

www.comebeforewinter.org

karencbw@gmail.com

1600 High Lonesome

Leander, TX 78641 USA

Home: 512-216-2060

Cell: 512-785-0607

共著者:

ジニー・リース

Come before Winter, Inc.

www.comebeforewinter.org

jreesecbw14@gmail.com

1901 Morrow Lane

Abilene, TX 79601 USA

Office: 915-674-3794

編集:

ホーリー・エマリー

Come before Winter, Inc.

www.comebeforewinter.org

hollyemerycbw@gmail.com

612 Cox Drive

Irving TX 75062

Cell: 469-432-1456

翻訳者:

エデンフィールド尚子

naoko.edenfield@gmail.com

立川市錦町1-6-8

ラフィナタワー120

080-3424-8216

マクレイン智子

tomokomclain007@gmail.com

茨城県常陸太田市真弓町1622-3

0294-74-3810

本書を複製する際の留意点:

自身で教えるために以降の6つのワークシートを複製して使う際には、ノート全体の著作権は保護されていることに留意して下さい。どのような媒体で複製する場合においても、著者の著作権IDの変更はしないで下さい。その他のページを使用する際には、著者に使用権を要請してください。



学びのプロセスのステップ

- ステップ1. み声を聞く準備
- ステップ2. 文脈を見出す
- ステップ3. 書かれていることを吟味する
- ステップ4. 主たるポイントを探る
- ステップ5. そのメッセージを自分の人生に当てはめる

聖書釈義とは何か？

聖書釈義的学びを紐解く

カムビフォーウィンターの哲学には実践的な「聖書釈義」の学びが含まれます。聖書釈義とは聖書解釈論の一つで、聖書の意味を理解するのに、まず一番最初にみことばを聞く者たちに伝えようとしたメッセージは一体何であったかを探り求めることから始まる学び方です。言い換えれば、「ここに書かれた言葉や、話された言葉には、その当時いったいどんな意味が託されていたのか？」という質問を投げかける必要があります。その意味を読み解くためには、時空間というフィルターを通して様々な物語や教えを振り分けて考えて行かなければなりません。これに限らず、さまざまな理由を考慮すると、聖書の概念を正しく理解し、私たちの文化にその概念を当てはめようとする時そこには努力が必要とされることが分かります。

実は、私たちのためにその努力は進められてきたのです。聖書を手にすると、その書かれた内容は私たちが完全に理解できるように編纂され、他の誰かの手によって言葉の翻訳から始まり、さらに考えや概念までもすべて解説されていることがわかります。このように、翻訳された文書を読む時、地理、社会学、国民性、言語や時代などといった莫大な量の詳細な背景を誰かが解釈し、その誰かの解釈を私たちは選び、聞き入れているのであるということも自覚しなければなりません。しかし、幸いなことに、ほとんどの聖書の翻訳は、何らかの委員会が行っています。聖書の読み手は、一人の人が訳したのではなく、多くの学者たちによる話し合いの末の産物であることを知ってひと安心するでしょう。

私たちが学ぶ聖書の翻訳が多くの学者たちの協力によって完成されたものであることを知り安心できたとしても、思慮深い学習者であるならば、たとえどの言語であれ、どの翻訳であれ、書かれたものが全く異なる言語で書かれものであるかのように注意深く読みこなして行かなければならないでしょう。今日これからの時は、神様のみ言葉に全てを捧げて過ごしていきます。そして、最初に書かれた時の文脈背景を吟味しながら聖句を学ぶうちに、ひとりひとり、そして個人的にできる限り神様ご自身の言葉で神様のみ声を聞くことができるように信じてください。

ピリピ人への手紙を検証するこのテキストは、

聖書釈義の学びの導入として書かれました。これからの数日間、ピリピの人々に送ったメッセージに込められたパウロの思いを明らかにしていきます。ピリピ人への手紙を選んだ理由が、3つあります。まず書簡であること。新約聖書のほとんどが書簡の性質を持って書かれています。聖書のジャンルのひとつひとつにその課題が見て取れます。書簡であれば、書き手と受け手の両者の「境遇」が文脈を確

立していく上で重視されます。次に、すべてのキリスト教の教会の健康と成長の基礎となるクリスチャンの一致が、ピリピ人への手紙のテーマになっているからです。そして最後に、ピリピ人への手紙は、限られた時間内で勉強するにはちょうど良い長さの内容だったからです。

どうぞ、この素晴らしい体験を共に分かち合ってください。

まず自分自身を、自分の文化を、聖書の言っていることに対する偏見を一切捨てて、新しい耳でもう一度聞こうとする姿勢がありますか？靈感や理解の真髄を探しながら、すでに教えられた一節を新しい目で読み、その詳細を吟味する心の準備はありますか？聖霊を通してもう一度神様が私たちに教えてくださるようにと心から求めながら、聖書

にあるみことばを真剣に読み調べるとしたら、いったい何が起きるでしょうか？この学びが終わる直前まで、他の本や注釈書などを調べなかったらどうでしょうか？文脈に沿ってただ単純に聖書を読むことから、何を発見することができるでしょうか？神様からのみことばは、私たちの中に新しい火を灯し、聖書を学ぶ新しいエネルギーとなり、私たちの心とミニストリーを再構築するためにキリストを新たに追い求め原動力となる素晴らしい先生となり得るでしょうか？

釈義一

ギリシャ語；

「～から導きだす」という意味。この聖書の学び方では、学び手は文脈から学びます。すなわち、聖書のみ言葉自体から直接その教えの意味を導きだします。



養成 セッション1

ステップ1—み声を聞く準備

(祈る、読む、探す、そして聞く。)

- A. 自分の霊的な成長と内なる理解のために祈る。「この書に書かれていることの本質を真に知りたいかどうか？」自分に問いかける。
 - B. 読む、読む、読む！細かく分析しようとせず、まず読む！
 - 1. 一度にできるだけ何度も繰り返し読む。
 - 2. 違う翻訳を照らし合わせ、使われている言葉の微妙な違いに注意を払う。
 - C. 基本的な事実を調べる。(自分のできる範囲で) 文書に書かれている内容に至るまでの状況を把握する。
 - 1. 聖書の内容とまた、適切な補助教材を使って、聖書に関して次の項目に沿って調べる。＊ここは自習のための情報です。楽しみながらいろいろ調べてください。
 - a. 著者
 - b. 時代
 - c. 場所
 - d. 対象とする読者、またその読者との著者の関係
 - e. 書き方及びジャンル
 - 2. この書を学ぶ前に、次の質問をよく考えてみよう。この聖句は、そのことばを一番最初に聞いた者たちにとってどのような意味があったのだろうか？ 聖句の意味は当時の読者に当てられたものと今日とで異なるものではない。
 - D. 聞く！さらに読む；文書から語られることに耳を傾けよう。進むにつれて、自分自身に質問を問いかける。
 - 1. 学びの中で生まれる難しい質問は、祝福である。常に、自分の質問に注意を払う必要がある。たとえ、それが自分にとってチャレンジであったとしても。
 - 2. 質問を書き留め、思いを巡らし、心に留め、また読み進める。
 - 3. 途中、ときどき、読むのをやめる。そして、耳を傾け、質問に戻り考える時を持つ。さらに、学びが必要と思われる聖句を調べる。
- 祈る！
- そして、また更に読み続ける！

備考

聖書に関する基本的な事実を細かく見る時に、優れた聖書評訳書を参考にとすると良いでしょう。また、別に聖書解釈書も参考になるでしょう。

基本的な事実を探す演習(ステップ1)

前ページのポイントCを参照する。ピリピ書に関して次の質問に答える。

C. (自分のできる範囲で) 文書に書かれている内容に至るまでの状況を把握する。

1. 聖書の内容とまた:

a. 著者: 誰が書いたのか?

b. 時代: いつ書かれたのか?

c. 場所: これを書いた時、著者はどこにいたか?

d. 対象とする読者、またその読者との著者の関係: 誰に対して書かれたものか? なぜ、その人たちに対して書かれたのか?

e. 書き方及びジャンル: この書は、どのタイプの本と言えるか?

文脈が全てである! 書の詳細を探る前に作者が読者に知っていてほしい多様な文脈について考える必要がある。

1 世紀のピリピ人への手紙の文脈背景に対する注釈:

留意点,

聖書の代わりになるものは一切ない。聖書それ自体が最適な解釈書である。

聖句の意味は当時の読者に当てられたものと今日とで異なるものではない。

養成 セッション1(続き)

ピリピの状況

この書簡においてこのような状況が見
て取れる:

この書簡のパウロの目的に関して、もっとも重要
だと思える状況を3つ選んでください。下の四角
の中に、自分が選んだ3つの状況とまた、その状
況に対してパウロが言ったことも含めて書き入
れてください。

グループディスカッションのためのメモ

パウロの教えとピリピ人への手紙のテーマ

視点:

今までいったいどこに行き着くのか分からずさまよい歩いた時がありますか?いろいろなことがうまく行かず、判断を誤ってしまったと思ったことはありませんか?主がニネベに行けと言ったのに、タルシシュに向かったことはありますか?道のりが危なさそうだからと言って、ヨルダン川を渡りなさいという主の命令を拒んだことがありますか?今あなたはそのような道を通っていますか?使徒16章でパウロが2度目の宣教旅行にあったことがわかります。パウロはアジアでメッセージを語ることを望んでいましたが、それが叶わず北東のフルギア・ガラテヤの地方を巡っていました。ピテニヤに行こうとしましたが「イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。」のです。そこで一行はトロアス(西方面)に下り、ある夜パウロは「マケドニア(さらに西方面)に渡って私たちに助けてほしい。」と懇願する男の幻を見ました。NIV訳ではパウロは神が彼らをマケドニアに導いたと結論付けたと記し、NRSV訳では幻を見た後、パウロと一行は確信したと記しています。しかし、読めば分かるように、その時経験した出来事は一言で表せるような簡単なものではありませんでした。数人の男性が自分たちの立ち向かう状況を信仰の目を通して理解しようとしていたのです。

もしパウロがマケドニアに着けば落ち着いた生活が送れると思っていたとしたのなら、それは間違っていました。ピリピでは攻撃され、投獄もされ、町を出て行くようにと言われました。テサロニケでは彼の教えが暴動を起こしてしまいました。ベレアにとどまることもできませんでした。そしてようやくマケドニアを出ることができました。

どのようにして人は神の御心を判断するのでしょうか?自分は正しく結論を出しているとうやうや知るのでしょくか?「聖霊はお許しにならない」とどのように知るのでしょくか?神が望まれているように歩いているのだと、どのように確信できるのでしょくか?

私は確信しています 神がなさるであろう 静まり、一人で、祈る

あなたがたのうちに良い働きを始めた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを**私は強く信じているのです。**

ピリピ 1:6

賛美して備える:

- 目を閉じて神の臨在を知る。
- この時を祝福し、あなたの心を守り、あなたの思いを導き、あなたが神に聞き従えることができるように頼む。

学び:ピリピ人への手紙を最後まで読む。パウロが直接あなたに語りかけているかのように、この書が語ることに耳を傾けてください。読みながら**パウロの神様に対する視点**に耳を傾けます。必ず神の御心は成就されると確信する時、このパウロが伝える神様はどのような役割を果たすと思われますか。

1:6に見られるパウロの確信と1:14, 2:24, 3:3-4に見られる主張を比較します。パウロが語るこの確信とは、いったいどのようなものだと思いますか?

パウロにとって十字架とはクリスチャンの歩みにおいて究極の教えとなっています。2:5-8でパウロはピリピの人々に「キリストと同じ心構えで」いなさいと勧めています。クリスチャンが真似るべきキリストが行ったことを書いてください。

しかし2:9-11では究極的に神が褒め称えられるためにイエスを高く上げたのは神ご自身であることに注目して下さい。

質問:イエスを高く上げると決められたのは**神ご自身の御心であった**ことがなぜ重要なのですか?神がイエスを高く上げることで結果的に父なる神の御栄光につながるという事実をよく考えてみてください。この聖句から栄光、名誉、犠牲について私たちは何を学べるでしょうか?

私たちが神と共に歩く時、神ご自身がそのみ手を私たちに差し伸べてくださいます。そして、パウロは私たちにはっきりとそのことを悟るように語りかけています。以下の項目をひとつひとつ読んでください。そのひとつひとつについて、パウロはクリスチャンたちにさまざまな方法でその証となるようにと熱く語っています。また、その信者たちの生活において、また証においての神の役割にも触れています。

聖句	信者の貢献	神の貢献
1.27-28		
2.12-13		
4.4-7		
4.13		

自分と向き合う

もし私の人生を通して人々に証しするのが神であり(1:28)、もし良いことを行い、良いことを行いたいと私たちのうちにおられ働かれるのが神であり(2:12-13)、もし私の心と意思を守る平安が神から与えられるなら(4:4-7)、もし私にどんなことでもできるようにしてくれるのが神の力だとしたら、(4:13)私のクリスチャンの歩みに自身が持てないことがあるでしょうか？

これらの真理に気づくことで神についての私の思いはどのように変えられるでしょうか、あるいは私自身や私の奉仕が神にどう映っているかを考える時にどう変わるでしょうか？

もしこのような約束が私の人生だけでなく私が知っている人々の人生にもあてはまると自信をもって言い切れるとしたら、他のクリスチャンに対する私の態度はどのように変わるでしょうか？

祈る:

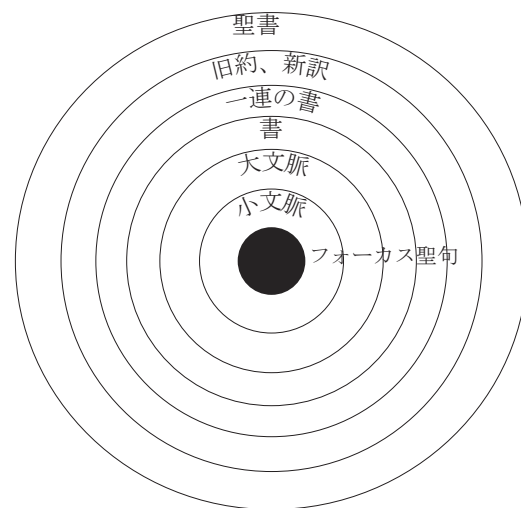
- ・ 神が神であられることを**賛美**してください。
- ・ **告白してください。**あなたの証の妨げになる恐れや傲慢さ、不従順、信頼することへの躊躇にはどんなものがありますか？主は真実な方であると信じるあなたの信仰を**告白してください。**
- ・ この葛藤を通して主をよりよく知る機会となることを感謝してください。
- ・ 主があなたのクリスチャンの歩みを支え、主が備えてくださる力と平安を経験できるように**頼んでください。**
- ・ **静まってください。**主の臨在にとどまる時間がもう少しありますか？

養成 セッション2

ステップ2—文脈を見出す

基本的な用語を確認しましょう

- ・ フォーカス聖句—もっと熟考したいと思われる特別な聖句
- ・ 小文脈—フォーカス聖句を囲む文書（その直前直後の文章）から、相互に影響を与えながら ひとつのまとまりとなり得たり、あるいはひとつの考えとして成立できるもの。
- ・ 大文脈—本の主なセクションの一つ。特に、フォーカス聖句を含む主なセクションで、そこからより深い議論を導き、また、目的やテーマについて議論することもできる。



学びの順序について

聖書を読むとき、私たちはある特定の聖句箇所（ここでは、その箇所をフォーカス聖句と言います。）を学んだり、議論することを好みます。ともすると、すぐにでもそのフォーカス聖句に焦点をあて、学びを始めようとします。しかし、この聖書釈義のルールでは、まず、大きな絵を見ることによって学びを始めるように努めます。つまり、大文脈の箇所をまずカメラのレンズで覗きながら、聖書のその特別な箇所メッセージ、あるいはテーマを見ていきます。そのメッセージが明らかになった時点で、今度は少しずつズームインしながら、小文脈に近ずいていきます。そして、著者が私たちに伝えたいことが一体何かを理解できたと自信が持てたら、さらにズームインし、フォーカス聖句を細かく見ていきます。しかし、その際に、その文の前後で学んだ内容を必ず心に留めておくということを忘れてはいけません。

私たちの学びの順番は次の通りです。大文脈 → 小文脈 → フォーカス聖句

留意点,

文脈からその意味を理解します。ある一箇所の聖句は物語全体のある一部分である。物語やメッセージ全体のポイントは、聖句をひもとく助けとなります。

セッション 2：ステップ2—文脈を明らかにする(続き)

大文脈を確認する：

1. 書の全体のアウトラインを理解する(あるいは、いくつかのアウトラインを比較する。)

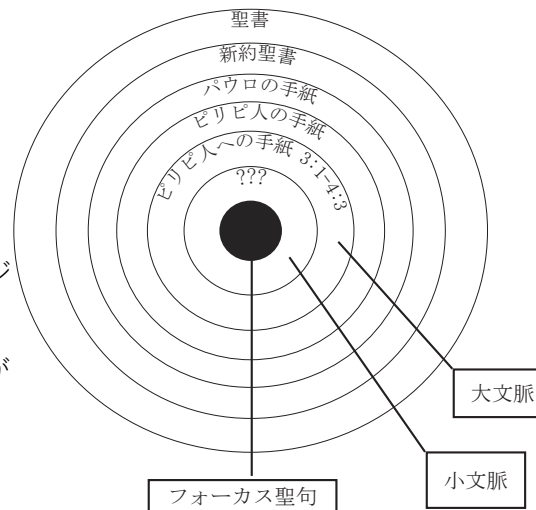
ここでいう大文脈の意味はもうお分かりですね。自分のフォーカス聖句を含む主なセクションのことで、一冊の本は、いくつかの主なセクションを集めたものです。ですから、今この時に、一歩下がり、この書全体のアウトラインを把握することが大切です。練習を重ねると、自分なりにアウトラインを作ることができるようになります。しかし、ここでは、聖書辞典や、解釈書などを参考にして、今学んでいる書のアウトラインを調べてください。聖書箇所の内容などにはここでは触れず、できれば、何種類かのアウトラインを見比べると良いでしょう。次のページに構成のアウトラインの一例と共に、ピリピ人への手紙の構成についてメモを取るスペースがあります。

2. その書が主要なセクションにどのように分かれているかを確認する。

2、3種類のアウトラインを比較しながら、主要なセクションの始まりと終わりがどこかを確認します。それぞれにどのような違いがあるか、たとえばセクションの分け方に違いがあるかを調べます。違いがある場合、「仕切り読み」(一つのセクションの一番最後の聖句と次のセクションの一番最初の聖句を見る。)を試し、そこからなぜそのように区切ったのかを考えます。*そして、自分が学びの中で使用したいアウトラインを一つ選びます。

3. 学ぼうとしている主要セクションのテーマを確認する。

使うアウトラインが決まったら、そのアウトラインで強調されている主なテーマにまず目を向けます。特に、自分が選んだフォーカス聖句があるセクションのテーマに注目します。この学びのフォーカス聖句は、ピリピ人への手紙3:15-16です。17ページにピリピ人への手紙のアウトライン構成が掲載されています。そのアウトラインの主要ポイントVにある「手本の対比を通してのさらなる勧め」と呼ばれるセクションにこのフォーカス聖句が含まれることを確認してください。ピリピ人への手紙のこの箇所をこの学びの**大文脈**として捉えて下さい。



小文脈を確認する：

1. **小文脈**とは、フォーカス聖句を囲む箇所(直前直後の文)を意味し、フォーカス聖句に相互に作用し、そこからある一つの考えが浮かび上がってきます。
2. このピリピ書の学びでは、**小文脈**の位置を自分で探していきます。そのためには、自分の選んだフォーカス聖句の前後をよく注意して読みます。そしてフォーカス聖句とその前後の箇所に似たような言葉や考えがあるかどうか注目してください。フォーカス聖句とその前後の聖句に共通している事があるかどうか、あれば、いったいそれは何であるかを探りましょう。また、あるひとつの考えが与えられた場合、それはどこで始まり、どこで終わるのでしょうか？(また、そこにどう行き着いたのか？)次のステップ3では、学びのツールとして、自分が学ぼうと選んだフォーカス聖句に対応する小文脈をどのように見つけるかを説明しています。

* 注：万一、いくつかのアウトラインの区切り方があまりに違いすぎる時は、アウトラインの作成者の内容の読み方や、そのまとめ方が違う可能性が挙げられます。たとえば、ある作者は、旅の移動の様子に沿ってセクションを区切りアウトラインを作成する一方、別な作者はテーマに沿ってアウトラインを考えたりするといったことが考えられます。あるいは、マタイの福音書ではイエス様の5つの説教の最後に「イエスがこのように言い終わると」という表現が繰り返し使われていますが、このように(同じフレーズの繰り返しの様な)決まった形で繰り返される内容などによってアウトラインを作ることができます。

グループディスカッションのためのメモ

ピリピの人々に宛てたパウロの手紙の構成

学びのアウトライン ジェニーン・リースによる

ピリピ人への手紙の主なセクション | ピリピ人への手紙の構成アウトライン パウロとテモテからの友情を示す手紙

I. 導入 (1:1-11)

- A. あいさつ (1.1-2)
- B. 受け手のための祈り (1.3-11)
 - 1. 感謝 (1.3-8)
 - 2. 嘆願 (1.9-11)

II. 送り手についての元気づけのことば (1.12-26)

- A. パウロの投獄; 福音の広がり (1.12-14)
- B. 福音を語る人たちの対比 (1-14-18a)
- C. パウロの待ち望まれた釈放 (1.18b-26)

III. 受け手に対する心配 (1.27-2.18)

- A. 敵対する際の一致と勇気 (1.27-30)

テーマ聖句

大切なことはただ一つ: キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしっかりと立ち、心を一つにして封印の信仰のために、ともに奮闘しており…。(1:27)

- B. キリストの姿に続く一致と謙遜の証明 (2.1-11)
- C. 共同体としての完全さと忠実さのための働き (2.12-18)

IV. 旅行計画とキリストのようなお手本 (2.19-30)

- A. テモテの来訪 (2.19-23)
- B. パウロの来訪 (2.24)
- C. エパフロデトの来訪 (2.25-30)

大文脈

V. 手本の対比を通してのさらなる励まし(3.1-4.3)

フォーカス 聖句

ですから、成人であるものはみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。(3.15-16)

VI. 結び (4.4-23)

- A. 最後の励まし (4.4-9)
- B. 与えることと受けることの大切さ (4.10-20)
- C. あいさつ (4.21-22)
- D. 祝祷 (4.23)

養成 セクション2(続き)

文脈を明らかにする練習(ステップ2)

大文脈の始まり

第3章

課題:小文脈を見つける

私たちは、よくある特定の聖句から聖書に入ることがあります。その聖句の文脈を探して行くとその書を解きほぐすだけでなく、聖句の意味することがはつきりしてきます。

どんな聖句でも注意深く検証していく最初のステップの一つは、まずその聖句に関する多様な文脈を見つけ出すことです。今週の学びの目的のために、ビリピ人のへの手紙を幾つかの大きなまとまり(大文脈)とフォーカス聖句(ビリピ3:15-16)に分けました。小文脈の設定は、各自に任せます。

1. 大文脈を注意深く検証します。印がつけられ、一行ずつ空けられています。

2. フォーカス聖句のビリピ3:15-16のより豊かな意味を探し求めながら、焦点を当てていく小文脈の境界を見つけしていきます。

3. あなたが選んだ聖句をはっきり示すために、下にひかれた点線を伸ばします。

↑?
小文脈
↓?

1

最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。

2

どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。

3

神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

4

ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。

5

私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、

6

その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。

7

しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

8

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。それは、私には、キリストを得、また、

9

キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

10

私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、

11

どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。

12

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。

セッション2: ステップ2—文脈を明らかにする(続き)

そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13

兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

14

キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

15

ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はすることもあなたがたに明らかにしてください。

16

それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

17

兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

18

というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

19

彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

20

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

21

キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

第4章

1

そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

2

ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。

3

ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

大文脈の終わり

視点:

初めてブラジルに行った時、石から切り出して作った十字架を買いまいした。それは私の誕生石と同じ色をしていました。もう一つの十字架をカムピフォーウィンターのブレスレットにつけています。それはチームの仲間やみなさんと分かち合う使命と親睦を忘れないために付けています。それとは別にあともう一つ十字架を持っています。女性のリトリートの最後に私がカルバリーについて話した時にもらったものです。それらの十字架はすべて美しく、見ていると美しいメッセージが見えてきます。御父と私への主の愛と、主の従順と救いのメッセージです。

イエスのようになりたいと願う女性はすべて自分の十字架を負い、イエスに従わなければなりません。私は十字架が死の道具であることを知っています。イエスのようになりたいと思って私が背負うであろう私の十字架は、私を死に導く道具になり得ることもわかっています。カレンが死に至るところです。自分の望みや目標、誇りが、主の望み、主の目標、そして主の栄光に変えられる場所となるのです。私が十字架で息を引き取ったら私はイエスのようになるのです。

今もなお続くイエスの受難を祝福することは難しく、十字架が象徴するイメージ通りの十字架を実際に目にしたことはありません。もし仮にそうだとしたら、その十字架を壁にかざったりブレスレットにつけたりはしないでしょう。パウロが1:29-30に伝えるように「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」と書いているようには、まだ私はキリストの受難を捉えきることができません。神様、助けてください。私はイエスのようになりたいです。そこで苦しみ死に、私が愛するお方にどうにか栄光をお返しすることができるように、私は自分の恐ろしい受難の十字架を愛したいです。

苦難に遭うのは当然です 神がなされた 静まり、一人で、祈る

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私にはキリストを得、また……私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうかして、死者の中から復活に達したいのです。

ピリピ 3:8、10-11

賛美し備える:

- o 目を閉じて神の臨在を知る。
- o この時を祝福し、あなたの心を守り、あなたの思いを導き、あなたが神に聞き従えることができるように頼む。

学び: 今もなお自分の身に起こりうる現実、すなわち、自己犠牲—十字架に対するパウロの理解に目を向けて、**ピリピ書を通読してください。**

パウロは主キリストを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っていると宣言しています。さらに一つの讃美に、このキリストを親しく知りたいと記しています。もう一度2:5-11を読んでください。この讃美の中で一番あなたの心を打った箇所はどこですか？ また、それはなぜですか？

その讃美は、本来あるべきみ姿、つまり神ご自身と等しくあられるという、権利を自ら進んで明け渡すことから始めたキリストの犠牲を描いています。しかしそれは単なる始まりにすぎませんでした。下の空きスペースにこれ以上ないくらい謙虚な服従のステップを書いてください。一つ一つのステップがより深い服従を必要とします。

ピリピ 2:7

ご自分を _____、 _____ を取り、
_____ になりました。
_____ を持って _____、

ピリピ 2:8

自分を _____ し、 _____、
_____ 実に _____ の _____ までも
_____。

パウロは1:27で書いたポイントの拡大解釈にキリストの讃美を含めていますがそのポイントとは何ですか？

1:27に記されているパウロの勧めを受け入れ実行するにあたって、なぜクリスチャンはその讃美に表されているキリストの姿を理解しなければならないのですか？

イエスは最初のそして神の独り子であり、**神のみ姿で存在されました**。このような犠牲を可能にする神様の本質を理解するイエス様の根底にある信仰とはいったいどのようなものだと思いますか？2:6を読み直してください。

パウロは利己的、野心的、高慢と呼ばれることについて書簡全体を通して書いています。(3:2-3参照)明らかにこの者たちは割礼—体の一部の犠牲—をユダヤ人の印であり、またクリスチャンの印でもあると教えていました。しかしパウロはクリスチャン特有の犠牲は体とは何の関係もないと主張しています。3:3に「割礼の者なのです。」とあるように「真の割礼の者」となるにはクリスチャンは何を手放さなければならないのでしょうか？神を真に礼拝することができる何か私たちにあるとしたら、一体それは何だと思いますか？

自分と向き合う： 右側の四角の中の質問を考えてください。自分の性質のどの部分を諦めるのに一番抵抗がありますか？

祈る：

- 愛すべき者でない者を愛してくださる神を**賛美しましょう**。
- **告白してください**。あなたが溜め込んでいる賜物、権利、才能、資質は何ですか？あなたがその執着から解放されるよう神様が助けてくださるという信仰を**告白してください**。
- この葛藤を通して主をよりよく知る機会にしてくださることを**感謝してください**。
- あなたが真にキリストを知るようになる十字架の力と平安を経験できるように**頼んでください**。
- **静まってください**。主の臨在にとどまる少しの時間はもう少しありますか？

自分と向き合う：

十字架にかけられる

時間をとって自分が簡単に誇ってしまう性質（パウロが3:4-6でしているような）の特徴を2つか3つ書き出してください。リストが出来あがったら、自分の本質にもっとも近いと思われるものを一つ（あればいくつか）のわきに☆印をつけてください。

先週を含む過去何週間かを振り返ってください。傷ついたり、怒ったりしたことも含めてこの時期に経験した2つか3つの対立をリストアップしてください。

その対立とその対象となる人たちのことを考えてください。どのようにそれらの対立やその人たちはあなたの性質に挑んできましたか？

養成 セッション3

ステップ3—書かれていることを吟味する

注意深い読み手になることを学ぶ

A. 該当聖句及びセクション内の言葉を注意深く見て文章を調べる。

- 繰り返されている事象(その事象が何回現れているか)に注意を向ける。
 - 言葉
 - 似たようなフレーズや考え
- 述語動詞を考える。
 - その述語動詞は行動に目を向けさせているのか、それとも状態を示しているのか?
 - その述語動詞は助言(または命令)を与えているのか?
 - 動詞の時間の要素(時制)を考える:過去形か?現在形か?未来形か?
- 代名詞に目を向ける。
 - 例えば主格単数の私は/あなたは/彼は/彼女は/それは/なのか、複数の私達は/あなた達は/彼らは/なのか、目的格の私に/彼に/彼女に/彼らに/それらに/なのかなど
 - 誰に(または何に)むけて書かれた言葉なのか?例えば、「彼ら」とは誰を対象としているのか?「彼らは」は、複数形。
 - 代名詞の格(1人称(私は)、2人称(あなたは)など)が変わる箇所はあるか?
- 言葉、言葉のグループ、フレーズ、考えなどのどんな違いも書き出す。
 - この聖句の中で似ている事象は何か?
 - この聖句の中で異なっている事象は何か?
- 移行語を見つける。(移行語は小文脈の境界を明確にしたり、主なセクションや広い文脈を見つけるのに一つの書のアウトラインをつくる時に役に立ちます。)
 - それらの移行語は時間的推移を表しているか?(例えば、「その後」「それから」「次の日」のように)
 - それらの移行語は地理的又は、身体的な動きを表しているか?(例えば、「彼は旅をしなが」のように)
 - それらの移行語は「もし」のように条件を表しているか?(もし条件が与えられているならその条件は何か?)
 - それらの移行語は結果や概要を強調しているか?(例えば「したがって」「このことから」「だから」のように)
- その他の重要だと思える言葉(場所、フレーズ、コンセプト)を吟味する。
 - この言葉(又はフレーズ)が本当は何を意味するのか?
 - この事柄は他のどこかに書かれているか?
 - 同じ著者が他の書のどこかでこの言葉を使っているか?
 - この言葉が新約聖書のどこか他のところで使われているか?
 - この言葉が旧約聖書のどこか他のところで使われているか?
- 聖句の中で質問はされているか?誰がその質問に答えるのか?どのように答えられるのか?
 - 直接応答形式なのか?
 - 物語形式(又はたとえ話の形式)なのか?
 - 参照聖句を示してなのか?
 - 比較によってか?
 - その他?

留意点:

文脈から文章が語っていることを吟味した後のみ、適切な全体像を見失うことなくその内容を調べることができます。よく見てください!

B. 少し戻ってこれまでに見つけたことすべてについて考える。

1. この聖句で重要と思えることは何か?
 - a. 抜き出した繰り返し使われている言葉とフレーズを振り返る。(A1参照)
 - b. どんな考えやポイントが最も頻繁に現れていますか?
 - c. 重要なものとしてどんな考えやポイントが突出していますか?
2. この聖句の構成をどう考えるか?
 - a. 抜き出した移行語を振り返る。(A5参照)
 - b. それらの移行語は著者がどのようにその文章を編成したのかを知る助けになっているか?
 - c. 著者のメッセージの核心を示す要約部分を見つけたか?
3. 発展的テーマを見つけたか?

* 注記

テーマを見つける：

学びの詳細の中にパターンや強調などを見つけられるようになると、平面のページに書かれている一つの言葉からいくつものテーマが浮き上がってきます。私たちは、事細かな知識ばかり得て、教材から離れて全体像を見ようとはしません。

詳細を吟味したなら、すべての事実を要約する必要があります。福音書はイエスの奇跡を証し、イエスの教えを聞いた男性と女性で溢れています。それらの人々は主の後を追ひ、間近に押し寄せていたので主は食事

の時間をとることすらできないほどでした。人々はそれのすべてを「見た」が、「聞く耳」と「見る目」は持っていませんでした。盲人だったのです。

21世紀において私たちは、それらの人々以上に見ようとしないうし聞こうとしていません。私たちもまた体験も伴わず、証をしてしまう恐れがあります。テーマを見つけることはメッセージを理解する助けになります。

主な見解の一つとして詳細部分から一つのテーマが浮かび上がってきます。この方法を用いることで学んでいる書のいくつかのテーマを見つけるのに助けとなる必要な情報を集めることができるでしょう。このことについて祈ってください。聖句の中にたくさんさんのテーマを見つけることでしょう。聖書ではそのようなテーマは互いに繋がっていて、しばし繰り返されています。聖書全体の教えの視点から、一つの書のテーマを考えることはさらに豊かな収穫を得ることになるでしょう。

ワークシート1 (ステップ3参照—何が書かれているかを吟味する)

ピリピ人への手紙のたとえ

繰り返し使われている又は
頻繁に使われている言葉等
に注目する

言葉：例：もし励ましがあり、愛の慰めがあり、御霊も交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、
(2:1)

同じような語句や考え：例：霊を一つにして・・・心を一つとして
(1:27)

動詞/動詞形

例：キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです (1:29)

比較/対比

例：彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。 (1:28)

代名詞 (何を指しているのか?)

例：ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。(2:29) (ここでは、エパフロデトを指す。)

移行語 (時間? 移動? 結果?)

そうすれば、私が行って (1:27) そういうわけですから、愛する人たち、 (2:12)

キーとなる言葉、場所、語句またはコンセプト。用語索引や他の手段を用いて言葉自体を調べたり、言葉、場所、語句、コンセプトをより徹底的に検証する。

例：親衛隊 (1:13) キリスト・イエスの日 (1:6) 割礼 (3.3)

問いかけ：

どうということになりますか? (1:18)

答え：

あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられるのであって、このことを私は喜んでいます。 (1:18)

書かれていることを吟味する: ワークシート1(続き)

この聖句で重要だと思われることは何か? (下の空いている部分に繰り返し使われている言葉、考え、重要だと思えるポイントを書き出す。)

この聖句の構成について気づいたことは何か? (空いている部分にメモを取る。まとめは見つけたか?)

展開されているテーマはあるか?

視点:

征服王アレキサンダーは、紀元前4世紀にマケドニアから出てきて、世界中のほとんどを征服しました。彼ほど世界に影響を与えた人はいません。戦闘に対する才能は天性のものがあつた、父であるマケドニア王フィリッポスが生み出した戦争理論を、アレキサンダーは若くしてマスターしました。縦横10人の計100人の柱で「重装備の歩兵隊」を編成したギリシャの密集軍は無敵を誇りました。兵士たちは、胸、腕、脛に鎧をつけ、頭には兜をかぶり、特注の槍と長い刀と短棚を持ち、一人一人が密着してどんな武器をも通さないように移動する歩兵隊を編成したのです。当時この軍隊の攻撃に立ち向かえる敵はありませんでした。この戦法でマケドニアは活気のない小さな地方都市から、アテネとスパルタの両方を征服し、争いの絶えなかったギリシャの街をまとめ上げて、軍事的に重要な都市として生まれ変わりました。

パウロは、マケドニアのピリピ人たちにこう伝えたのです。「霊をひとつにしてしっかりと立ち、心をひとつにして福音の信仰のためにともに奮闘しており、また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることない。それは、かれらにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。

」ピリピ1:27-28

交わりの中で堅く立ちなさい キリストが一つにする 静まり、一人で、祈る

こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあつた愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、私の喜びが満たされるように、あなた方は一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。何事でも自己中心や虚栄からすることなくへりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

ピリピ2:1-4

賛美し備える:

- 目を閉じて神の臨在を知る。
- この時が祝福され、あなたの心が守られ、あなたの思いを導き、あなたが神に聞き従うことができるように神様をお願いする。

学び: この世にあるキリストの体とその立場に目を向けてピリピを通読してください。

日本語訳の聖書では、もしキリストにあって励ましがあつた愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情と哀れみがあるのであれば、自己中心的な思いや虚栄心を捨てるようにと教えています。(ピリピ2:1:4) ギリシャ語、また英語の聖書ではこの部分に「もし少しでも」という表現が4回ほど繰り返されており、さらに強くこの聖句のポイントを表しています。「キリストにあって、もし少しでも励ましがあつた、もし少しでも愛の慰めがあり、もし少しでも御霊の交わりがあり、もし少しでも愛情と哀れみがあるなら」。大きな力を与えてくれる教えです。私たちの中に、果たして今までキリストにあってなんら励ましを受けたことがないなんて言える人がいるのでしょうか?ほんの少しも愛の慰めを受けたことがない、ほんの少しも御霊の交わりがない、ほんの少しも愛情と哀れみを感じたことがない。このギリシャ語の文体から分かることは、この著者は私たちすべての者に呼びかけているということです。事実私たちはこのようにたくさんの恩恵を受けているからです。

以下の指示に従ってピリピ2:1-4に印をつけてください。

もし なら を四角で囲んでください。

「～があり」というフレーズにすべて下線を引いてください。

2節にある「～をし」にすべて下線を引いてください。

なにごとでも することなく 、ことだけではなく を四角で囲んでください。

2:1でパウロが言っているイエスとイエスの聖霊と一つになることで得られる祝福をリストアップしてください。

キリストと結びつくことで受ける祝福の度合いは時によって違いはあるかもしれませんが。パウロがわたしに1節にある勧めによく従いなさいと熱く語っていることは明らかですが、その前にまず私自身がどのように祝福されていると感じなければならないのでしょうか?

パウロを例にとるならば、キリストの交わりから得られる励まし・慰め・交わり・柔和・あわれみを受けることのできる喜びを、クリスチャンはどのようにして何倍にも増やすことができますか？(2節参照)

ピリピ2:3に「虚栄」という言葉がありますが、ギリシャ語の聖書にはここでは kenodoxia (vanity 虚栄, conceit うぬぼれという意味)と書かれています。また英語では vain conceit (vain 虚栄な, conceit うぬぼれ)と訳されています。いずれの聖書でも虚栄だけではなく、うぬぼれという意味がそこに含まれています。虚栄とは「自分を実質以上に見せようとする、見栄」という意味であり、うぬぼれは「実際以上に自分が優れているという思い」という意味である。ギリシャ語、英語の表現も考慮に入れて、ここで言う虚栄とは一体どのようなものだと思いますか。

2:3-4でクリスチャンは自分自身を3つの方法で見据えるようにと説いています。キリストの讃美をもう一度注意深く読んでください。(このすぐ後に続きます。)そして、6-8節の中にキリストが、これらの勧めをどのように具体化させたか見つけてください。

1) 何事でも自己中心や虚栄からすることなく	
2) 自分のことだけではなく	
3) 他の人のことも顧みなさい	

2:3では、何事でも自己中心や虚栄からすることなく、互いに人を自分より優れたものと思いなさい、と説いています。2:1-4の教えと4:8-9の教えを比べてください。自分自身と神様との関係に平安がある時、自分の思いは、他の人に対する自分の行動にどのような役割を果たしますか？

1:27-30に書かれていることをよく考えてください。キリストにふさわしくあるように、すべての信者と一つとなるように、というパウロの勧めを真摯に受け取らなければならないのはなぜですか？

祈る:

- 神の創造物の多様性を**賛美**しましょう。
- キリストとの絆を通して得られた励まし・慰め・交わり・柔和・あわれみを**告白**してください。
- あなたの愛がまだキリストの愛のようではないと思う理由を**告白**してください。
- この葛藤を通して主をよく知る機会となることを**感謝**しましょう。
- 愛することがとても難しいと思われる人たちにあなたの心が開かれるよう神に**祈り求めてください**。
- **静まって**、主の臨在にとどまる時間はありますか？

自分と向き合う

ありますか？
ありますか？
ありますか？

交わりは単に「共通すること」を意味します。

1-10までの数字で、あなたの人生における他の信者たちとの交わりの度合いを表してください。
1:ほとんどない 10:完全に

1-10までの数字で、あなたとキリストの交わり、あなたと聖霊の交わり具合を表してください。

私たちのお互いの交わりが、私たちとキリストとの関係を反映していると考えられるのはなぜですか？

あなたにとって、交わりにくい人のことを考えてください。
その人に対して、キリストが価値あると認めるところはどこですか？

その人から学べるのはどんなことか、一つあげてください。

来週、あなたはどのようにその人に仕えることができますか？チャレンジしてください。

礼拝プランに関する神学：メモ



養成 セッション4

ステップ4—主たるポイントを探る

A. じっくり考える

1. ステップ1で学んだ背景についてじっくり考える。

留意点：聖句の意味は今日と書かれた時代とで異なる物ではない。

- ステップ1で学んだ作者、対象となる読者、両者の関係について考える。
- その情報をもとにその聖書のことばを最初に聞いた人々にとって、その言葉はどんな意味を持っていたと思うか？

2. ステップ2で明らかにした文脈についてじっくり考える。

留意点：どのフォーカス聖句も大きな物語の一部である。

- この書は何について書かれているのか？
- 大文脈(3章1節–4章3節)**のメインとなるメッセージは何か？大文脈内のそれぞれのセクションの共通点は何か？
- 対象聖句箇所の**小文脈**内で起きている事は何か？

3. ステップ3で吟味したフォーカス聖句についてじっくり考える。

- この聖句で頻繁に使われている言葉又は、考え方は何か？
- 重要な、あるいは意味あるものとして目立つ考え方やポイントは何か？
- この聖句で作者が一番言いたい主要点は何か？それを一文で書けるか？

B. 総合する

ここまでこの書の背景、大文脈と小文脈のメッセージ、フォーカス聖句の要点についてじっくり考えてきましたが、ここで一歩さがってそれらすべてがどのように組み合わせられているのか見ていきます。

- 大文脈又は小文脈のどの考えがフォーカス聖句にも見る事ができるか？
- 自分が選んだフォーカス聖句が伝えようとしていることは、その物語にさらにどんな意味を付け加えるか？
- この書を通してこの箇所にあえてこの物語を載せたことで、作者は読者に何を伝えようとしたのか？

C. 検証比較する

この聖句に関して他の人たちと自分が学んだ事を話し合います。ここでは、いつもの顔ぶれの仲間達との話し合いや、聖書評訳書や他の資料の作者との「考え方の交換」が含まれます。他の人たちの考えに**思いを巡らせ**、また自分の考えと**比較**したりします。新しい発見があったり、また、他の人が同じ箇所で似たような考えを示すことで自分の考えに自信を持てたりするかもしれません。また、自分の結論に変える必要があると思えるときは調整したりします。

D. 祈って聞く

作者が書を書いた目的がはっきり見えるように、そして学んでいる聖句の要点を見つける事ができるように神様にお願いします。あなたが書いたノートから(1~2日、少なくとも1晩)離れる時間をとります。学んだことがふと心に浮かんだら、神様にその意味を自分の心にはっきり示してくださるよう祈ります。そして夜寝る時に「その日学んだ事で本当に大切な事は何か」自問してください。

E. ポイントを見つける

一つの聖句から全てを知る事はできませんが、「今日学びの後、祈り聞いた結果この聖句が私にとって意味する事は……です。」と言えるところまで到達することはできます。

- (ノートを見ずに)自分が何を学んだかを自問します。静まって座り、心に浮かぶ事に集中する。
- ノートを見る。この聖句から主な教えを一つ書き出すとしたらそれは何か？そのポイントを一文にまとめる。(15秒から45秒で説明できるように)

ワークシート2 (ステップ4参照—メインポイントを探る)

A. じっくり考える

…… ステップ2で明らかにした文脈についてじっくり考える。(大文脈と小文脈から何を学んだのか?)

…… ステップ3で吟味したフォーカス聖句についてじっくり考える。(著者が伝えたい大切なポイントはいったい何であるか?)

B. 総合する

1. 大文脈又は小文脈のどの考え方がフォーカス聖句にも見る事ができるか?
2. 自分が選んだフォーカス聖句が伝えようとしていることは、その物語にさらにどんな意味を付け加えるか?
3. この書を通してこの箇所にあえてこの物語を載せたことで、作者は読者に何を伝えようとしたのか?

C. 検証比較する (他の人が見つけた事を検証し、自分の考えと比較する。)

D. 祈って聞く (自分のノートから離れて過ごした時に祈りの中で心に浮かんだ事は何か?)

E. 要点は何か?

「今日の学びの後、祈り聞いた結果この聖句が私にとって意味する事は……です。」該当聖句の主な教えをひとつ挙げるとしたら、それは何であるか?要点を一文にまとめる。(15秒から45秒で説明できるように)

視点:

ある思慮深い女性がいるのですが、その彼女が息子の結婚式の一週間前に私にこう言いました。「その週末の純粋な喜びを何者にも、何者にも、何者にも邪魔させないようにしてね。」と。私はその言葉をしっかり覚えています。そしてその言葉は教えてくれました。式に弟は来ることができませんでした。パウロポイントはうまく動かないし、私は披露宴のためにしなければならなかったことを忘れてしまったし、一人の祖父は感情的になるし、その日はほとんど一日中食べることができないという状態でした。それでも私たちの家族は祝いました。家族が一緒にいて、とても楽しい時間を過ごすことができました。その時困惑した小さなトラブルは今では記憶の隅にすら残っていません。結婚式は完璧でした。花嫁は美しく、思い出の数々はあのウェディングアルバムに料金をはるかに超えたすばらしいものになりました。その日の大成功の秘訣はたった一つでした。それは私たちがお互いに愛し合っているという一番大切なことでした。

ペリピ1:12-30で、パウロは彼の切迫した状況に対しての彼の視点を示しました。彼は投獄され、仲間たちの説教がパウロの証に害を及ぼし始めていました。さらにパウロはこれからの裁判の行方がどうなるか、生きるのか死ぬのかさえわかりませんでした。その中であって、パウロは楽天的にあり続けました。さらにパウロの投獄は、他の信者たちに確信を与えました。確かに、党派心から福音を語り、パウロの名前の評判は悪くなる一方でしたが、必ずしも悪いことだらけではありませんでした。どんな形にせよキリストが宣べ伝えられたのです。そして、死に向かうことさえも？パウロはキリストと共に在るほうを望みました。一方で、生きることは友人たちとの時間や実りある働きにつながります。パウロが唯一心に留めたことは、友人たちが一つの目的のために一致し、強く立てるようにということでした。もしそれができたとしたら、何も他に心配することはなく、もういつでも旅立って行いけたはずで、幸せ者として。

一致することが肝心です。

主にあって一致してください 調和が重要 静まり、一人で、祈る

ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。

ペリピ 4:2-3

賛美し備える:

- o 目を閉じて神の臨在を知る。
- o この時を祝福し、あなたの心を守り、あなたの思いを導き、あなたが神に聞き従えることができるように頼む。

学び: ペリピを通読してください。読みながら「一致して強く立ちなさい」とパウロがペリピの人々たちに何とも呼びかけていることを考えてください。

もう一度4:2-3を読んでください。ユウオデヤとスントケについて知り得たこと、推測できることをすべてリストアップしていきましょう。2人の神との向き合い方及び、ペリピ教会での立場に対してのパウロの意見も含めて下さい。

パウロは「**主にあって**」一致するということを女性たちに勧めています。この表現はペリピ書では7回も使われています。今回を除いて、このフレーズが使われる時は常に「喜びなさい」や「喜び」という言葉が後に続いています。(この2組ずつの聖書箇所をみてください。2:19/2:17-18; 2:29/2:29; 3:1/3:1; 4:1/4:1; **4:2**; 4:4/4:4; 4:10/4:10.) この4:2-3だけが「喜び」という言葉が続いていません。神にあって一致することで、どのように喜びに結びつくと思いますか？カッコ内の聖句を比較対比して見る時、論争が起こるとキリストの体全体に及ぶ影響とはどんなことだと思われますか？

この箇所に二つ目の要望が書かれています。「ほんとうに、真の協力者。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。」という挿入句はパウロの各教会への書簡の中で異色です。2:14-16と4:5をもう一度読んでください。この2人の女性の仲違いがこのような特別な処遇を受けることができたのはなぜだと思いますか？教会の中でいざこざが起きると何が失われると思われませんか？

パウロが彼女たちに「一致してください。」と勧めるのに、2:2で使っているフレーズを繰り返しています。(2:2では「心を合わせ」と訳されています。)もう一度2:1-4を読んでください。キリストにある祝福によって、クリスチャンは何を進んですることができますか？

この二人の争いや、関わっていたクリスチャンたちについてわからないことがたくさんあります。誰が正しいのか、誰が誰と同意していたのかもわかりません。この争いの成り行きさえもわかりません。パウロがどちらかの味方をしたのかもわかりません。ただ、2人の女性が平等に対応されるようにという主旨をパウロはここで言葉を選びながら伝えています。ギリシャ語で読むと「ユウオデヤ、私は勧めます。セントケ、私はキリストと同じ思いになるように勧めます。」となります。なぜ私たちはこの争いのことをほとんど知らされていないのでしょうか？この書の残りの部分で、パウロが教えていることに注目してください。そのような細かいことはパウロの目的になんら関連がないとどのように結論付けることができるのでしょうか？

祈る:

- ・ 今週、神と一緒に経験できたことを、神に**賛美**しましょう。
- ・ 教会での神の働きに参加したいと**告白**してください。
- ・ 教会が一致することにおいて弱点となっていることに、あなたが貢献できる方法を**告白**してください。
- ・ 他の人と一緒に働くことを通して、主をよりよく知る機会になることを主に**感謝**しましょう。
- ・ あなたが堅く立って、主とともにいられるように主の助けを**求めて**ください。
- ・ **静ま**ってください。主の臨在にとどまる時間はもう少しありますか？

自分と向き合う:

今週は様々な機会を満たされました。祈り、聞き、身を捧げ、祝福し、過去にとらわれずに未来への目標を定めるという機会を得ました。自分自身について今週何か発見したことはありますか？

あなたがここを去っていく際に、持っていけるような何か新しいことを神様はささやかれましたか？

あなたが捨てなければならない些細な仲違いは何ですか？

主にあって喜ぶのに何者にも、何者にも、何者にも邪魔させないということを、日々どのように覚えておくことができますか？

養成 セッション5

ステップ5—そのメッセージを自分の人生に当てはめる

この聖句を通して神さまが自分に語りかけていることを見つける。

頭にある知識とイエス様に捧げた心には大きな違いがあり、また、神様についてあれこれ知っている人と神様を真に知っている人との間にも大きな隔たりがある。

私たちは自分の人生と切り離して学ぶこともできるし、更に教えることさえできる。しかし、弟子としての信頼性はその人なりに大きく左右される。知っていることはすべて正しいが、その人の人生は空っぽという生き方より、現実につまづきながら、その概念をはっきり目に見えるように生きるほうが望ましいことは言うまでもないであろう。主を知ることによって初めて心を一新できるということを私たちはしっかりと心に留めておきたい。

- A. この聖句で示された(決して変わらない)基本的な人間の資質を確認する。
- B. この聖句箇所に出てくる考え、態度、人間関係について、自分自身、あるいは自分の文化において、その教えに十分に從えていないと思われる最近起こった特別な出来事や状況を一つか二つ挙げる。
 - 1. まずあなたの人生において
 - 2. あなたの家族の人生において
 - 3. あなたの友人たちの人生において
 - 4. あなたの教会員の人生において
 - 5. 社会全体において
- C. 今週上に挙げたような状況にぶつかるとしたら、それぞれどんなことが考えられるかをひとつひとつ書き出す。
- D. 上記の状況と照らし合わせて、学んだ聖句の要点に思いをめぐらし、黙想する。この真実がBの箇所で挙げたそれぞれの状況に対して、どのような影響を与えるかを考える。
- E. 自身がこの原則を実現している姿を想像する。この聖句で学んだ原則を自分に当てはめたら、(前述した特別な状況において)来週はどのようになるであろうか？

ワークシート3

(ステップ5参照—そのメッセージを自分の人生に当てはめる)

1. 今週、学びや瞑想、祈りから得られた新たな理解は何か？
2. 自分のフォーカス聖句からで学んだひとつもっとも大切な原則は何か？
3. 過去の自身の人生の中でこの原則を必要とした時は……

下記について考える。

- そのような状況下で自分は通常どう反応していたのか？
- 自身の通常の反応は自身の葛藤についていったい何を表しているのか？
- そのような葛藤は自身の伝道や住んで奉仕してきた場所にどのように影響したのか？
- そのような状況下でより適切に(神様が望まれるように)対応できるように、自分が選んだフォーカス聖句からさらにどんな原則を学ばなければならないか？
- もしこの原則が自分の行いを変えさせたとしたら、自分の伝道の何が変わるであろうか？また信仰を共にするコミュニティーの兄弟姉妹への影響、あるいは自分が生活し、奉仕している場所にいる人々に対する影響にどんな変化があるであろうか？

4. これからの一週間、自分のさまざまな責務や仕事を思う時、この学んだ大切なことを自分に当てはめようとしたら、きっと.....時であろう。

5. 今週末神様が自分に語られたことで、普段信仰を分かち合う教会や集いにおいて、また世界のために行う自分の奉仕において 今後何が一番変わっていくだろうか？

具体的に示す！

「もう少し忍耐強くなるつもりです。」とは言わない。

この様に言う:「私の同僚が大勢の前で私に食ってかかってきたら、何も言わずに黙って聞き、必要ならばもう一度自分の言い分を主張します。そうでなければ黙っています。なぜならこのようなチャレンジの根底には必ず不安があることを知っているので、1日が終わる前に彼/彼女を認めていると示す方法を探します。」

養成 セッション6

分かち合いの準備

今週末神様が自分に語られたことで、普段信仰を分かち合う教会や集いにおいて、また世界のために行う自分の奉仕において 今後何が一番変わっていくだろうか？

ともに堅く立っている

ピリピ人への手紙でのレッスン

付録A

ジニー・リース

ピリピの教会に向けた書簡は3つのレベルでの対立について書かれている。

A. この書を書いている時のパウロ自身の状況において

1. 「なぜ」かは知ることはできないが、パウロはローマで投獄されていた。
2. パウロは、いかなる困難にあっても常に福音のことを気にかけていた。
3. 若いクリスチャンたちのことを案じてはいたが確信を持っていた。
4. 生と死の問題を抱えていた。

B. ピリピの教会は、矛盾と苦難のうちに成長していったという通常ではない状況下で建てられた。

1. パウロはマケドニアへの不思議な召しを受ける。
2. 川の近くで出会ったリディアという女の人と家族がクリスチャンになる。
3. 予言を語る女奴隷が、パウロとシラスは神から出たと言いながら付き従う。パウロはその女奴隷の悪霊を追い出した。主人は恐ろしく思ってパウロとシラスを時の権力に引き渡した。
4. パウロとシラスは鞭打たれ、殴られ、投獄され、激しく抑圧された。
5. 地震が起きた夜、収監されていた男たちは逃げ去り、恐れた官吏は自殺すると脅す。
6. パウロとシラスは官吏を安心させ、福音を知らせた。
7. 官吏と家族は洗礼を受けた。翌朝、司令官はパウロがローマ市民だと知り驚く。
8. 権力者たちは殴って投獄したことを謝罪し、パウロと同労者に街からすぐ出て行くように命じた。パウロは新クリスチャンたちを短い間だけだが訪ねた。
9. パウロは心からピリピの人たちを愛していたので、そばにいられずに去ることに心を痛めた。

C. パウロは困難にあってもクリスチャンとして生きることについて教えている。(ピリピ1:27-30)

1. **市民権のイメージ:**「ただひとつ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」
2. **アスリートのイメージ:**霊をひとつにしっかり立つ。
3. **軍人のイメージ:**敵に驚かされることなく、福音の信仰に心をひとつにして共に努力する。
4. **神の性質全てに関わるイメージ:**「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じた信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。」
 - a. ここでいう苦しみは何者かの手、あるいは何かによる苦しみ、つまり本当の確執を意味している。苦しみは信仰の一部分である。つまりキリスト共にあることを意味している。
 - b. 3つの励ましが示されている。
 - 1) **苦しみは救いを保証する。**同様に悪である敵の破滅を示している。
 - 2) **苦しみは特権である。**ここでの苦しみはゲッセマネの園でキリストが受けたのと同様の苦しみを表している。(ルカ書22:44)
 - 3) **苦しみは分かち合う経験である。**ほかのクリスチャンが私たちと分かち合う。この書に記されたパウロの苦しみを、ほかのクリスチャンも同様に分かち合うのである。

このステップ・バイ・ステップ式の聖書の学びを進めるとき、読み調べている書が一体どのタイプのものであるかが常に問題になってくる。古代の手紙の場合も同様に、どんなタイプの手紙として書かれたかを考えることが大切である。たとえその手紙が、福音書のように物語形式のものでなくても、その手紙から語られる物語が存在する。手紙は物語のある一片で、その時に何が起きているかの内情を理解することができる。

書簡を分類することは私たちが作者の意図を理解する助けとなり、読者がより明快にメッセージを聞くことができるようにしてくれる。何千もの古代の手紙が存在するなか、その大多数は以下の6つの部分から成り立つ基本形式にあてはまる。¹

1. 作者の名前
2. 受取人の名前
3. 挨拶
4. 願い、もしくは感謝の祈り
5. 本文
6. 締め挨拶と別れの挨拶

基本的なアウトラインの違いで、その書簡がどのタイプとして書かれたものであるかを分類し、著者の意図を推測することができる。例えば、ガラテヤ人の手紙では、パウロはアウトラインの最初の3つは含めたが、願い／感謝の祈りは省略している。そのかわりに、すぐにガラテヤの教会と彼らの福音に対する応答に対して、快く思っていないことを示す裁きの言葉に移っている。また、それとは対照的にピリピ人への手紙では、長めの願いと感謝の祈りを綴っている。このことによって、パウロが違う目的を持ってこの書簡を書いていたということが理解できる。

パウロの2つの書簡を見比べればこのくらいのことはすぐわかることだが、ピリピ人への手紙を分類するにはまだ十分な情報とは言えない。聖書をさらに読み進めていくと、パウロはピリピにいるクリスチャンたちと深い関係を築いていたことがわかる。そのうえで、よりキリストのようになることの必要性をピリピの人たちにあえて教え伝えている。この洞察は、パウロの意図を理解し、この手紙を分類することへの近道となる。とは言え、この書簡を完全に理解し、分類するためには、古代の手紙について記した書物や、ハンドブック、辞典や解説書を必要とするだろう。ここでの学びでは、ピリピ人への手紙は友情から出る心からの励まし、あるいは親しい友達への励ましの手紙として学んでいく。

古代世界の友情を現代と同じように捉えることはできない。ギリシャとローマの哲学者たちによれば、友情とは社

会をまとめる接着剤であり、主にその基礎的土台にあるのは美德であった。この背景を考慮すると、友達同士は気持ちを同じにして、友情ゆえにお互いにとっての良いことを祈るという互惠関係にあり、また、お互いに物質を分かち合っていたと考えられる。これらの資質はパウロとピリピの人々との関係にも見られる。信仰者として考えられる最高の美德が人々を一つにまとめていた。その美德とは、2:6-11の賛美の中に映し出されるキリストのようになりたいという熱望である。

この手紙全般を通して、キリストのように生きる(1:27、2:2-4、12-15、4:4-6、8-9)とは、正確にはいったいどういう意味であるかを考えるようにパウロは読者に問いかけている。ピリピ人への手紙の中の一風変わった励ましの一つに、読者に対して命令形式で記されているものがある。パウロは、ピリピの人々に生きて欲しいと願う人生と、何としても避けなければならない人生を、古代特有な表現に従って正と負の両方の具体的例を挙げて示している。

前ページにあるアウトラインは、同様の手紙に見られる構成上の類似点と、励ましに目立って用いられている形態の両方を反映している。²

(注釈)

¹ Gordon D. Fee and Douglas Stuart, How to Read the Bible for All Its Worth, (Grand Rapids: Zondervan: 1993), pp. 46-7.

² Charles B. Cousar, Reading Galatians, Philippians, and 1 Thessalonians: A Literary and Theological Commentary, (Macon: Smyth & Helwys: 2001), p. 129.

書簡に関する詳細を総合する

環境あるいは状況: ビリピ人への手紙が書かれた時の周りの基本的な事実を全て考慮する。この書簡を書く動機となった(なりえた)状況を、理解するのに役立つ以下の質問を検討する。

1. 郵便としての手紙

- この手紙の内容は、手紙のやりとりの始まりか、それともその返事か？
- この返事を書ききっかけとなった最初の手紙はいつ書かれたか？また、最初の手紙とこの手紙の間にどのくらいの時間が経過したか？
- この手紙のやりとりを最初に始めたのはだれか？
- この人物/グループについて知っていることは何か？
- 文通の始まりについて知っていることは何か？
- その人物/グループが手紙のやりとりに込めた意図は何であったと言えるだろうか？
- 最初の手紙はどのように送られたか？
- 手紙の送り主と配達人の間に関係はあるか？あるとしたらどんな関係か？
- この2つの手紙の間隔について何かわかっているか？つまり、返答するのが早かった/遅かった理由は何か？
- この手紙はどのように届けられたか？
- なぜこのタイミングで返答したのか？(なぜそのときなのか？)

2. 手紙とその手紙に託された目的

- 最初に手紙を受け取った時のこの書き手の反応は、どんなものだったと推測されるか？
- この手紙にはある人物たちについて書かれているが、それは誰か？
- 手紙に出てくるそれぞれの人物と書き手の関係とは？
- 手紙に出てくるそれぞれの人物と読み手とされる人たちとの関係とは？
- 手紙で一番多く繰り返されている「考え」は何か？
- 繰り返される「考え」からこの手紙の中で書き手が一番伝えたかったことは何だと思うか？
- これらのことを考慮して、書き手は何を目的としてこの手紙を書いたと思うか？
- これらのことを考慮して、書き手はどのような状況に関して書いたと言えるだろうか？

ピリピの参照となる他の聖書箇所: 使徒の働き 16:6~18:5, 第一 テサロニケ 2:2

著者: 一般的にパウロの手紙だと信じられている。

時代: ローマで投獄されていた時期だとすると紀元60年~62年だと考えられる。

使徒の働きからの観察

パウロがピリピに到着する前のパウロの伝道について、以下の出来事について考える:

- ステパノが石打ちにされた時、凄惨な迫害が起こりました。その結果教会は離散し、多くのクリスチャンが国外に追放されました。興味深いことに、サウロ(パウロ)はステパノが石打ちされる場において目撃しただけではなく、自ら進んでそれに手を貸したのです。「パウロはステパノを殺すことに賛成していた」(使徒8:1)
- イエスがダマスカスに向かう途中で、まばゆい光として現れサウロを盲目にした時、サウロ(パウロ)はまだ主の弟子たちにとっては生きた脅威であり、また殺人鬼として考えられていた。盲目の状態で、食べ物も、飲み物もない3日間を過ごした後、主はアナニヤを遣わしました。サウロの視力は回復し、聖霊に満たされ、立ち上がってバプテスマを受けました。(使徒9:1-19)
- パウロの改宗の時にイエスとその名前を変えたと言われていますが、聖書では示されていません。使徒の働きでは新たな改宗者としてそのまま「サウロ」として話されていきます。サウロは「イエスがキリストであることを証明してユダヤ人たちをうろたえさせた」(9:22)とあります。13:2ではサウロとバルナバが最初の宣教旅行のために聖別されたとあります。13:9で初めて「サウロ、別名パウロは」とパウロと呼ばれるようになります。それからパウロと呼ばれるようになったのです。パウロの父親がローマ市民だったので(このためパウロもローマ市民になる)サウロはヘブル語のサウロとラテン語(ローマで使われていた言葉)のパウロの両方を使っていました。異邦人たちに向けて遣わされた使徒が、ローマ式の名前に対応しているのうなずけます。14:3では「パウロ」とバルナバはイコニウムで主によって大胆に語り、「ユダヤ人もギリシャ人も大勢の人々が」信仰に入りました。(14:1)
- ルステラでパウロは石打たれ、死んだものと思われて置き去りにされた(14:9)。しかし、神は引き続き異邦人たちが改心するのにパウロを用いた。パウロとバルナバは、新たに信者となった人々に教え、力づけ、信仰に真実であるようにと励まし、『「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ。」』と語った。また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈った後、彼らを信じていた主にゆだねた。(14:19-23)
- エルサレムからアンテオケにきた男たちが、改心者たちに、異邦人信者たちも救われるためには、割礼を受けなければならないと教えていた。このことに強く反論していたパウロとバルナバは、この問題をエルサレムの長老たちの下に提起し登って行った。(15:1-2)
 - そのため、パウロがピリピ人への手紙で「犬」について言及している箇所があるが、わたしたちはそこを読む際に、異邦人改宗者が割礼を受けるべきかどうかに関するこのルステラとアンテオケでの両方の出来事を考える必要がある。パウロは、この問題をエルサレムにいる長老たちに提起し(使徒15章)、ピリピに入り(使徒16章)、「そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。」(15:19)と書かれた審議会からの手紙を運んできた。むしろ、次のような最低限の教えに従うようにと:
 - 偶像に捧げたものを食べてはいけぬ。
 - 姦淫を犯してはいけぬ。
 - 血を食べてはいけぬ。
 - 絞め殺された動物の肉を食べてはいけぬ。
 - モーゼの律法を学び、安息日ごとに会堂でモーゼの言葉を聞いた者たちに敬意を示すためにこれらのことは行われなければならない。(15:21)

*次ページのパウロの投獄場所を参照のこと

ピリピ人への手紙の中のパウロの教えを踏まえ、以下のことを考える。

- ・ パウロとバルナバがエルサレムを離れ、これらの教会の再訪を決めた際、2人は意見の違いで対立し、共に働くことができないことが決定的になった。(15:36-40)ピリピ人への手紙での一致についての教えを学ぶ時、このことが特に重要になってくる。
- ・ パウロ自身が手紙を運んだにも関わらず、パウロはテモテに「ユダヤ人の手前」割礼を施した。(16:3)
- ・ パウロはピリピに彼を導くマケドニア人の幻を見た。そこでパウロは安息日に神に畏敬の念を置き、川辺で祈る女たちと出会った。彼の最初の改宗者は、リディアという女だった。(16:6-15)
 - ある地域に会堂を建てるには最低10人のユダヤ人男性を必要とした。ピリピには会堂がなかったことから、ユダヤ人の人口は少なかったようだ。川辺に集まっていた女たちはユダヤ人と「神を恐れる人々」の集まりであったと考えられる。神を恐れる人々とは、完全には改宗はしていないが、ユダヤ教を実践する異邦人だった。
 - 当時の古代ギリシア・ローマの街々に比べると、マセドニア人の女性のほうがより多く公の場で重要な役割を担っていたという証拠がある。(ピリピ人への手紙、Fee著、26 ページ)テラテア市の出身で珍しい紫の布を売る女商人ルデアは裕福で、パウロと彼の同労者を受け入れられるほど大きな家を所有していた。ユーオディアとシンティケも世帯の一部だったのではないかと考えられる、とFee氏は述べている。
 - 癒しを施したことでパウロとシラスが投獄される羽目になったこの少女とは、恐らく奴隷階級の一人であったであろうと言える。また、Fee氏によれば、16:25-34に登場する牢獄官吏官は職人だった可能性があると述べている。したがってFee氏は、ピリピの教会は、他の多数の教会のように様々な社会的階層の人で構成されていたと結論付けている。

ピリピ教会の未来

パウロがピリピを訪れた50年後、スミルナの司祭であるポリカールプからの手紙が、パウロがピリピで励まし続けた教会の様子を少なからず伝えている。その手紙では、ピリピの人々が、「真の愛の模範に従い、機会あるごとに、投獄され鎖に繋がれている人々の生活を助けていた。」と喜びを伝えている。ポリカールプは、このような鎖は聖人の飾りであり、「それは、私たちの主である神に誠選ばれた人々の冠である。また、以前からよく知られているが、私たちの主イエス・キリストの実が結ばれるまで現状に耐え忍ぶあなた方の堅く根付いた信仰を喜んでい。」と言っている。

パウロの投獄された場所に関して:

パウロがピリピ人への手紙を書いた時期に、パウロが投獄された可能性のある3つの都市に、学者たちはローマ、エペソ、カイザリアを挙げている。1:13に記述されている親衛隊の存在に関して多くの論争が起こっている。

ローマ

- ・ 親衛隊は皇帝の個人的なボディガードであった。したがって、ローマが一番の該当場所だとされた。
- ・ もしパウロがローマで投獄されたとするば、皇帝ネロがパウロの一件を聞きつけたであろう。パウロの存在ゆえにローマで福音が広がる様を目にしたのであれば、パウロ投獄はネロにとって朗報だったに違いない。
- ・ パウロがローマに送られたのは紀元60年初期で、2年間そこに留まった。エルサレムでの逮捕理由は、神殿の清めに関する違反である。この件はきっと容易にローマでは反論できたはずである。また、この件で死を恐れる理由は当時のローマにはなかったはずである。しかし使徒の働き24:5に記されているように、ローマの支配地を騒がしているとして有罪にされてしまう。この罪は重く、パウロの反論にも関わらず、皇帝の法廷でどう対処されるかを知る術もなかった。
- ・ 投獄場所がローマであることに異論を唱える学者もいる。もしパウロがローマにいて、ピリピ人への手紙に記されているように重罪に問われたのだとしたら、結果として死に至っていたであろう。なぜパウロは完全に解放されることを予測できたのだろうか?(ピリピ1:25-27)

導入

第1章

1

キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。

2

どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

3

私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、

4

あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、

5

あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。

6

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

7

私があなたがたすべてについてこのように考えるのは正しいのです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人々であり、私は、そのようなあなたがたを、心に覚えているからです。

8

私が、キリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、そのあかしをしてくださるのは神です。

9

私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、

10

あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、

11

イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現されますように。

送り手についての元気づけのことば

12

さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。

13

私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、

14

また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。

15

人々の中にはねたみや争いをもってキリストを宣べ伝える者もありますが、善意をもってする者もあります。

16

一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めてい

ますが、

17

他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。

18

すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいます。そうです、今からも喜ぶことです。

19

というわけは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、このことが私の救いとなることを私は知っているからです。

20

それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。

21

私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。

22

しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。

23

私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。

24

しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。

25

私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています。

26

そうなれば、私はもう一度あなたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。

受け手に対する心配

27

ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、

28

また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。

29

あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。

30

あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

第2章

1

こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、

2

私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにし

てください。

3

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。

4

自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

5

あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

6

キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、

7

ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、

8

自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

9

それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

10

それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、

11

すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

12

そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。

13

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

14

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。

15

それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、

16

いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦労したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

17

たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。

18

あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。

旅行計画とキリストのようなお手本

19

しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって望んでいます。

20

テモテのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもいないからです。

21

だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。

22

しかし、テモテのりっぱな働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにして、彼は私といっしょに福音に奉仕して来ました。

23

ですから、私のことがどうなるかがわかりしだい、彼を遣わしたいと望んでいます。

24

しかし私自身も近いうちに行けることと、主にあって確信しています。

25

しかし、私の兄弟、同労者、戦友、またあなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた人エパフロデトは、あなたがたのところに送らねばならないと思っています。

26

彼は、あなたがたすべてを慕い求めており、また、自分の病気のことがあなたがたに伝わったことを気にしているからです。

27

ほんとうに、彼は死ぬほどの病気にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。彼ばかりでなく私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました。

28

そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あなたがたが彼に再び会って喜び、私も心配が少なくなるためです。

29

ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。

30

なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。

手本の対比を通してのさらなる励まし

第3章

1

最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。

2

どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。

3

神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

4

ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。

5

私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きっすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、

6

その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。

7

しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

8

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、

9

キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

10

私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、

11

どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。

12

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13

兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

14

キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

15

ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。

16

それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

フォーカス聖句

◎

17

兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

18

というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

19

彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

20

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

21

キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

第4章

1

そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

2

ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。

3

ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

結び

4

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

5

あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。

6

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

7

そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と意思をキリスト・イエスにあって

守ってくれます。

8

最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

9

あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

10

私のことを心配してくれるあなたがたの心が、このたびついによみがえって来たことを、私は主にあって非常に喜びました。あなたがたは心にかけてはいたのですが、機会がなかったのです。

11

乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。

12

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

13

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

14

それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました。

15

ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおり、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つ也没有でした。

16

テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。

17

私は贈り物を求めているのではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。

18

私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。

19

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

20

どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこしえにありますように。アーメン。

21

キリスト・イエスにある聖徒のひとりひとりに、よろしく伝えてください。私といっしょにいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。

22

聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと言っています。

23

どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

ワークシート1 (ステップ3参照—何が書かれているかを吟味する)

ピリピ人への手紙のたとえ

繰り返し使われている又は
頻繁に使われている言葉等
に注目する

言葉：例：もし励ましがあり、愛の慰めがあり、御霊も交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、
(2:1)

同じような語句や考え：例：霊を一つにして・・・心を一つとして
(1:27)

動詞/動詞形

例：キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです (1:29)

比較/対比

例：彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。 (1:28)

代名詞 (何を指しているのか?)

例：ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。(2:29) (ここでは、エパフロデトを指す。)

移行語 (時間? 移動? 結果?)

そうすれば、私が行って (1:27) そういうわけですから、愛する人たち、 (2:12)

キーとなる言葉、場所、語句またはコンセプト。用語索引や他の手段を用いて言葉自体を調べたり、言葉、場所、語句、コンセプトをより徹底的に検証する。

例：親衛隊 (1:13) キリスト・イエスの日 (1:6) 割礼 (3.3)

問いかけ：

どうということになりますか? (1:18)

答え：

あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられるのであって、このことを私は喜んでいます。 (1:18)

書かれていることを吟味する: ワークシート1(続き)

この聖句で重要だと思われることは何か? (下の空いている部分に繰り返し使われている言葉、考え、重要だと思えるポイントを書き出す。)

この聖句の構成について気づいたことは何か? (空いている部分にメモを取る。まとめは見つけたか?)

展開されているテーマはあるか?

ワークシート2 (ステップ4参照—メインポイントを探る)

A. じっくり考える

…… ステップ2で明らかにした文脈についてじっくり考える。(大文脈と小文脈から何を学んだのか?)

…… ステップ3で吟味したフォーカス聖句についてじっくり考える。(著者が伝えたい大切なポイントはいったい何であるか?)

B. 総合する

1. 大文脈又は小文脈のどの考え方がフォーカス聖句にも見る事ができるか?
2. 自分が選んだフォーカス聖句が伝えようとしていることは、その物語にさらにどんな意味を付け加えるか?
3. この書を通してこの箇所にあえてこの物語を載せたことで、作者は読者に何を伝えようとしたのか?

C. 検証比較する (他の人が見つけた事を検証し、自分の考えと比較する。)

D. 祈って聞く (自分のノートから離れて過ごした時に祈りの中で心に浮かんだ事は何か?)

E. 要点は何か?

「今日の学びの後、祈り聞いた結果この聖句が私にとって意味する事は……です。」該当聖句の主な教えをひとつ挙げるとしたら、それは何であるか? 要点を一文にまとめる。(15秒から45秒で説明できるように)

ワークシート3

(ステップ5参照—そのメッセージを自分の人生に当てはめる)

1. 今週、学びや瞑想、祈りから得られた新たな理解は何か？
2. 自分のフォーカス聖句からで学んだひとつもっとも大切な原則は何か？
3. 過去の自身の人生の中でこの原則を必要とした時は……

下記について考える。

- そのような状況下で自分は通常どう反応していたのか？
- 自身の通常の反応は自身の葛藤についていったい何を表しているのか？
- そのような葛藤は自身の伝道や住んで奉仕してきた場所にどのように影響したのか？
- そのような状況下でより適切に(神様が望まれるように)対応できるように、自分が選んだフォーカス聖句からさらにどんな原則を学ばなければならないか？
- もしこの原則が自分の行いを変えさせたとしたら、自分の伝道の何が変わるであろうか？また信仰を共にするコミュニティーの兄弟姉妹への影響、あるいは自分が生活し、奉仕している場所にいる人々に対する影響にどんな変化があるであろうか？

4. これからの一週間、自分のさまざまな責務や仕事を思う時、この学んだ大切なことを自分に当てはめようとしたら、きっと.....時であろう。

5. 今週末神様が自分に語られたことで、普段信仰を分かち合う教会や集いにおいて、また世界のために行う自分の奉仕において 今後何が一番変わっていくだろうか？

具体的に示す！

「もう少し忍耐強くなるつもりです。」とは言わない。

この様に言う:「私の同僚が大勢の前で私に食ってかかってきたら、何も言わずに黙って聞き、必要ならばもう一度自分の言い分を主張します。そうでなければ黙っています。なぜならこのようなチャレンジの根底には必ず不安があることを知っているのです、1日が終わる前に彼/彼女を認めていると示す方法を探します。」



PO Box 203381, Austin, TX 78720
www.comebeforewinter.org
512.216.2060